

## 学力から人間力

市川伸一 編

内閣府に設けられた「人間力戦略研究会」では、社会の中で自分らしい生き方を追求するための教育のあり方を考えるのには、従来の「学力」という用語では収まらず、「人間力」という用語を中心に据え審議を行った。本書は、「人間力戦略研究会」に関わった各方面の方が執筆したものである。

文章構成は、8章からなり第1・2章では、「人間力戦略研究会」はどう進められたか、学力と人間力をどうとらえるかを説明している。産業界では「人材育成」というニーズがあり、学校教育では、社会における「自己実現」を理念としている。研究会では、双方とも矛盾するものではないとし、人間力の定義を「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていく力」とした。「教育とは、何のために、どのような資質・能力を育てようとするのか」というイメージを広げ、さらにそこから具体的な教育環境の構築が始まることに意義があるとしている。

第3章では、若年雇用の構造的、社会的な問題を論じている。今日の失業率の悪化とともに、若者のフリーターの増加が懸念され、さらに、無業・失業は経済だけの問題ではないとし、低い就業意欲や能力のミスマッチ等をあげ、その原因として、若者が将来に夢を持ってない背景があるとしている。

第4章では、人間力を「社会参加する市民」として「社会を構成し、運営する」という観点からとらえ、フリーター化は社会全体としての

文化的革新や創造性の活力が急速に失われると論じている。そのために学社連携・融合の促進を必要としている。特に現代的な市民教育が若者にいかに必要かを述べ、諸外国の市民教育の紹介及び日本における市民教育推進について言及している。

第5章では、多くのデータを基に青少年の行動特性から社会的自己実現を目指す学びについて説明している。学びに向かう力をどう育てるか、なんのために大学に行くのかとして大学進学動機等のデータを基に、社会的自己実現を達成するための具体的な必要性を示し、内容のあるキャリア教育によって社会的自己実現が進められるとまとめている。

第6・7章では、二つのそれぞれの高等学校での具体的な経営実践を紹介している。一つは都立足立高等学校での経営実践である。教育困難な学校の厳しい状況下で学校改革を実践し、学校改革が中途退学、フリーターを食い止めるとしてその取組と成果を論じている。二つは、福岡県立城南高等学校での経営実践である。「ドリカムプラン」として「自分探しの旅」を支援する組織的・体系的プログラムを実践し大きな進路指導として効果を得たものである。

両校には実践内容に違いがあるが、学校現場での人間力育成の具体的な事例を紹介している。

第8章は、「人間力戦略に思う」として各界の5名の方からの提言である。経営者からは、若者に望む資質、家庭・学校教育での在り方、大学・研究機関からは地域社会と学校の連携、「総合的な学習の時間」やキャリア教育の必要性について述べられている。

本書は、「人間力」とはどういうものか、これからの若者を育成する方策について参考になる本である。今後、この「人間力」が実社会の中で十分に生かされていくことを期待したい。

(教育出版株式会社, 139頁, 1,800円) (田中正一)